

AR242

2023年1月~3月号

アジア レポート



災害下で働く神

日本に派遣された宣教師

韓国から遣わされて

災害下で働く神

ケヴィン・ジェスードサン

アジア・アウトリーチ・マレーシア 宣教運営主事

2022年の10月に我々は大規模な台風と大雨がフィリピンの海岸を襲うだろうという知らせを受けた。そして11月にはトクロバンやセブ島の一部が複数の台風と土砂降りの雨による被害を受けた。近くにある東マレーシアのとある村では、ほぼすべての家屋が洪水によって流されてしまった。

このようなニュースが我々の耳に絶え間なく届いてくる。それを受けて我々は消極的な思いになりがちだ。悲惨な出来事の中に、神様がどのように働いておられるのを見失いかねない。自然災害の被害にあったフィリピンの村々を助けるために、宣教チームが支援を名乗り出た。人道支援に続いて、この宣教チームは福音伝道を行うことができた。同じように東マレーシアにおいても、洪水の被害にあった人々を助けるために、いくつかの教会が支援するために立ち上がった。

難しい状況において我々は神様の助けを叫び求めているだろうか。新型コロナウイルス感染拡大が収まり始めた時から、我々の多くは快適な生活を送っているのではないだろうか。最近私の思いに与えられた聖書のみことばには、復活のキリストに出会ったと報告した友を疑うトマスの様子について述べられている。

「それで、ほかの弟子たちが彼に『私たちは主を見た』と言った。しかし、トマスは彼らに『私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません』と言った。八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って『平安があなたがたにあるように』と言われた。それからトマスに言われた。『あなたの指をここに付けて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。』トマスは答えてイエスに言った。『私の主。私の神。』イエスは彼に言われた。『あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。』」
(ヨハネの福音書 20:25 ~ 29)

我々が信じるために、キリストは私たちにこのように現れる必要があるだろうか。キリストが十字架で死なれ、葬られ、その後ご自身の復活の姿を弟子たちにお見せになったとき、弟子たちは不安と恐れの中にあった。我々の中には弟子たちと同じように不安や恐れを抱いている人がいるかもしれない。新型コロナ感染拡大後の生活に慣れてきてはいるものの、我々は誰にも予測できない不確かな将来に向かっている。



セブ食糧配布

2022年に、宣教地から送られてきた報告は全般的にとっても肯定的なものだった。食料支援や必要物資を受けた人たちのうち、少なくとも50%は聖書の学びを受ける機会が与えられ、神様の福音を伝える準備ができた。ミャンマーやインドやフィリピンの農村で福音を聞いた人々は、神様の愛を経験することができた。愛の力を新しく知り、その愛に安心することを学ぶことができたので、不確かなことがあっても人生を前向きに送っていけるようになったのだ。

宣教地で働く協力者たちはそれぞれの戦いの中にあっても、すばらしい突破のあかしを分かち合ってくれている。聖書には我々の旅が簡単で楽なものになるといった約束は一つもない。しかし課題を乗り越えていくために、神様が助けとなってくださる約束については、聖書は多く語っている。

神様は荒野を旅していたイスラエル民族に前へ進むようにと語られた。我々も前に進まなければならない。課題を前にして逃げてはならない。むしろ神様に期待する心を

もって挑戦することを恐れてはいけない。神様は水を二つにわけて、乾いた地を歩かせることができるお方である。「神様。助けて下さい！」と叫び祈ることは恥ずかしいことではない。神様はご自身の助けをいつでも用意しておられるからだ。



インドの洗礼式

食糧と必要物資支援の働きを通して、我々は2022年において1000世帯以上の世帯を助けることができた。そし



て2023年にはこれまで以上のことをしていきたいと願っている。救いを必要とする人々のために、食料や必要物資とともに、神様のことばを届けていきたいのだ。2023年には東南アジアにおける新しい宣教地を訪問したいとも考えている。主が我々を導いてくださると信じている。どうか神様の知恵と導きとともに、聖霊による洞察力が十分に与えられるように祈っていただきたい。神様のご計画のみが最終的に実現されることを願っている。

AOジャパン

開かれている宣教の門！

AOJ協議会 京都福音教会 小平元昭



“わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救いを得させる神の力である。”（ローマ人への手紙 1章 16節）

この手紙を書いたパウロは、外国宣教に生涯を捧げた、世界最大の宣教師といえるでしょう。以前私がローマ市内の遺跡を見学した時、パウロが殉教前にいた牢獄を訪れました。フランスコ・ザビエルは、アジア宣教に行く前に、この牢獄で祈りを捧げてから出発したそうです。このように、パウロの上記の告白は、まさに私たちが持つべき海外宣教のスピリットではないでしょうか？

ところで、私は日本の一地方教会の牧師であり、海外へ遣わされている宣教師ではありません。しかし、こんな私にも、神は海外宣教の門を若い頃から開いて下さっています。私の最初の海外宣教の地はケニアで、まだ三十代の頃

に生駒聖書学院の栄義之先生に同行しました。現地では栄先生の通訳だけでなく、私自身も礼拝やセミナーで福音を語りました。英語からスワヒリ語さらに二つの部族語へと、通訳が三人も立つ中で福音を語るという、とても大変でしたが貴重な体験ができました。そして、この宣教旅行がきっかけで、私の中に海外宣教の強い思いが与えられたのです。

それから二十年以上たちましたが、その間にルーマニアへの宣教の門が開かれ、現地にはすでに九回行って、国中を宣教しました。さらに数年前には、ミャンマーへの宣教の門も開かれ、クーデターが起る前は、現地の聖書学校で教えたりしました。今は聖書学校の新校舎建設のために献金を送り、時が来ればまた宣教に行きたいと考えています。

このように、たとえ宣教師でなくても、海外宣教の働きのために、私たちには色々なことができます。自分たちに今できることを、してみようではありませんか！

日本に派遣された宣教師——第8回

韓国から遣わされて

申玉澈(シン・オクチョル)さん



日本にリバイバルを送ろうとしていらっしゃる神様は、その証として、日本に対して新たな宣教師派遣の波を与えてくださっています。そのお証を通して、世界の国々から支えられていることを覚え、前進して行きましょう。今回は韓国から来てくださったシン・オクチョルさんにお話を伺いました。

どのようにしてイエス様を信じましたか？

私は、両親がクリスチャンで6人兄弟です。両親が祈りと信仰をもって育ててくれました。幼い時から教会に通い、自然に信仰を持ちました。個人的にイエス様と繋がったのは高校生ぐらいだったと思います。

どのようにして世界宣教に関わるようになりましたか？

韓国にあるNGO団体の国際飢餓対策機構で働いていた時、日本の国際飢餓対策機構から日本に宣教師を送ってほしいとお願いされました。韓国国際飢餓対策は世界中に多くの宣教師を送っています。

どのようにして、日本宣教に導かれましたか？ また現在のどのような働きをなさっていますか？

私はアフリカへ宣教師として行きたいという思いがありましたが、祈りとみことばによって日本へ導かれました。

現在は、日本国際飢餓対策機構(ハンガーゼロ)で啓発の仕事をしています。日本各地にある教会やクリ

スチャン企業を訪問し、ハンガーゼロに協力していただけるようお願いしています。特に秋には世界食料デーの時期に合わせて、世界食料デー大会と世界食料デー礼拝の担当者として働いています。

また国内外に災害が起こった時は緊急支援として被災地へ行くこともありました。これまでスマトラでの津波、中国四川省の地震、東日本大震災、ウクライナ緊急支援活動、トルコ地震などの被災地で奉仕してきました。

あなたは日本にリバイバルが来るとお思いますか？ またどのようにに始まるでしょうか？

ハンガーゼロのスローガンは「わたしから始める、世界が変わる」です。これはとても聖書的で希望に満ちた言葉です。リバイバルは本当に難しいことだと思いますが、神様は全知全能の方です。あきらめないで神様に信頼していけばリバイバルは起こると信じます。ただ、「まず、わたしから始める」が大切です。周りだけを見て期待していたらリバイバルは起こりません。

日本に来る前と、実際に来てから後で最も予想外であったことは何ですか？

日本に来た時は39歳で独身でした。日本に来て日本人の妻と結婚し子どもが4人と与えられたことが予想外であり、大きな、大きな祝福です。

編集後記

- 新しい年2023年が始まりました。全国各地で大雪などのニュースがありましたが、みなさまお変わりございませんか？
- 世界各地がコロナ禍からの脱出傾向にある報告を聞く一方で、教会がオンライン化された結果、礼拝出席者人数がコロナ自粛に突入前ほどに復興しない悩みも聞こえてまいります。特に若者と高齢化した層に身体をもって出席をする人々

が減少していることもあり、オンラインを取りやめてふたたび会衆を会堂に集めようとしている教会もあるようです。

- 2022年の会計報告は次号でさせていただきますが、コロナ禍の影響で非常に収入が減少していることが分かりました。宣教のための財政を主が回復させてくださるよう、お祈りに覚えていただければ幸いです。

迫害されている
クリスチャンの
ために祈ろう！
hakugai.org